

Genius English Course I,II Revised

速読力を養うリーディング指導



萩野俊哉

速読はどのような言語でも、日常生活のさまざまな場面でごく自然に行なわれるリーディング活動です。新聞や雑誌、軽い小説やエッセーや広告文、あるいはインターネットを使った情報検索など、実際に私たちは毎日たくさんの速読を行なっています。一方、大学入試に目を転ずると、英語長文問題における語数は近年ますます増加する傾向にありますし、従来から英文速読力を重視してきた大学入試センター試験には、さらに今年、新傾向の第5問のような問題が登場しました。

このように、英文の速読力の養成は当然行なわれなければならないことであり、また、最近ますますその重要度を増していると考えられます。

それでは、具体的にどのように生徒に速読力を身につけさせることができるのでしょうか。教科書 *Genius* シリーズの著者のひとりとして、この教科書の特長を生かして行なうことができる点も含めながら、以下で解説しましょう。

■速読指導の基礎

(1) 学習方法を見直させる。

英語の勉強とは、教科書のすべての英文の一語一句を日本語に訳し、訳した英文をノートに書き留めていくという作業であると考えている生徒が多くいます。予習の段階でわからない単語や表現があると、その都度辞書を引き、何となく当てはまりそうな意味を抜き出して、ぶつ切りの日本語をパズルのように組み立てながらひとつの日本語の訳文を作り上げていく。

このような学習方法ははたして効率的と言えるでしょうか。そして、英文速読力養成に寄与すると言えるでしょうか。

(2) 単語力と文法力を身につけさせる。

速読力を高めるための工夫やテクニックはいくつかありますが、それでもやはり何と言っても語彙と文法の面でしっかりとした基礎ができていなければ十分な効果は望めません。

教科書 *Genius* のシリーズは、中学校の教科書の中で用いられる単語を分析し、また、実際に中学校で長年教鞭をとる教師の指導経験に基づいて、語彙の面で無理や無駄のないスタートを心がけました。また、課を追うごとに徐々にレベルを上げて、大学入試にも対応できる語彙まで上げていくという、単語の面でのきめ細やかな配置や配列を考えて編集しました。文法についても、中学の復習から入り、本文に関連させながら、実際に英語を使う際にも効果的な文法練習問題をふんだんに盛り込みました。

速読力養成の基礎となる単語力と文法力を生徒にきちんと身につけさせようとする姿勢は、この教科書の「背骨」として常に保たれています。

■速読指導のテクニック

「速読」とは何か。それは言い換えれば、skimming あるいは scanning という読み方で、すばやく文章を読み取るということです。前者は読んでいるものの要点を知るためにさっと目を通す読み方であり、後者は必要な情報のみを探して読む読み方を意味しています。したがって、速読

の力を養うということは、すなわち、この skimming と scanning の力をつけるということに他なりません。それでは、どのようにしたらこれら 2 つの読み方が身につくのでしょうか。その効率的かつ効果的な手法を以下でいくつか紹介しましょう。

(1) ねらいや目的を持って読ませる。

生徒に「読む」動機付けをすることは重要です。たとえば、「何が書かれてあるのかを知りたい」というのは、skimming をするひとつのねらいや目的と言えましょう。教科書 *Genius* では本文に入る前に Listening や簡単なペアでの英会話を通して、この「何が書かれているんだろう」という生徒の気持ちをかきたてます。また、教科書の図表やイラストやさまざまな資料等を使って生徒がそのような気持ちになるように仕向けることもひとつの方法でしょう。そして、日々の具体的かつ有効な訓練としては、本文の内容に関する質問 (signpost questions) があらかじめ与えられて、その答えを探るべく本文を読むということが考えられます。教科書 *Genius* では、本文を構成する各セクションの最初に “Points in Reading” と題して、skimming や scanning のための問いを英語で用意しました。その問いに対する答えを見つけるというねらいを持って、生徒は該当のセクションの本文を読むことになります。

(2) 時間を制限して読ませる。

速読の力を養成するわけですから、制限時間を設けて速く読む訓練をさせることが必要です。参考までに、1 分間で読める単語数 WPM (Words Per Minute) で計測した場合、ノンネイティブの初級学習者としての平均的な数値は 70~150 WPM。英語のネイティブの平均的な数値は 250~500 WPM 前後とされています。最初は無理せず、しかし、徐々に負荷をかけてトレーニングをさせましょう。

(3) Chunk で英文を頭から順に読ませる (「返り読み」をさせない)。

次の英文を例に取りましょう。

The only woman that I can love from the bottom of my heart is Keiko.

これを、いわゆる「返り読み」をして、関係代名詞の that 以下から先に意味を取ろうとするようでは速読はできません。意味のまとまり、すなわち chunk に着目して、文を頭から順に読んで理解する練習を積み重ねなければなりません。上の例であれば、The only woman/ that I can love/ from the bottom of my heart/ is Keiko. というふうにはスラッシュ (/) で区切った chunk を認識し、英文を左から右へそのまま素直に読みながら、chunk ごとの意味をつなげて英文全体を理解するという訓練が必要です。

紙幅の関係で詳しく説明はできませんが、これら 3 つの方法の他に次の 6 つの点にも注意して読ませると、速読力アップのために役立ちます。①筆者が次に何を言おうとしているか予測しながら読ませる。②重要な点とそうでない点を分けながら読ませる。③いわゆる「つなぎの副詞」や接続詞などの discourse markers に注意して読ませる。④分からない単語は文脈やその形から意味を推測させる。⑤自分の求める情報が書かれてある箇所にマークをしながら読ませる。⑥「筆者は何が言いたいのか」や「何の目的で書いたのか」ということを考えながら読ませる。

* * *

速読力養成のために、最後にもうひとつ重要なことがあります。それは「読解のための背景知識や経験 (schema)」を十分に身につける、ということです。馴染みのあるテーマやトピックに関して書かれた文章というのは、素早く読めるものです。その意味でも、日々のあらゆる教科のあらゆる授業がとても大切だということです。そして、できるだけいろんな本をたくさん読むこと。いろんな人のいろんな話を聞くこと。生徒にはこのようなことにも心がけさせたいものです。

(はぎの しゅんや・新潟県立新潟向陽高等学校)